

1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600510		
法人名	医療法人社団睦会		
事業所名	グループホーム昭和館まどか		
所在地	岐阜県笠松町円城寺947-1		
自己評価作成日	平成22年7月6日	評価結果市町村受理日	平成22年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600510&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、グループホーム周辺には、複数の介護事業者が、運営されているため、利用者やご家族の、安心と満足のある暮らしを支えています。ホームは、広い空間を持つ木造平屋3ユニットで構成されており、庭は、季節の花や木に囲まれています。理念である【思いやりがかよう同居人生活】を実践するために、家庭的で楽しい雰囲気、人としての尊厳を守り、適切かつ安全な医療とケアを提供し、ご家族、利用者の希望によっては、看取りまで行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院が母体であるこのホームの管理者は、看護師であり、月に2回の主治医による往診も含め、利用者の体調に関して家族の安心感を得ている。3ユニット毎に、職員は固定されているが、利用者の特性や好みを把握した職員が、日々のケアと支援を行っている。看取りは、基本的に医療行為を伴った場合は、他施設へ移ることを依頼しているが、医療の状態と家族の希望によっては、管理者と職員が一丸となって最全力を尽くし、ホームで看取りを行った経験もある。「思いやりが通う同居人」という理念通りのケアが日々行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は【思いやりがかよう同居人生活】として全員で取り組んでいる。地域の一員として、ホームにいつでも来ていただけるよう努力している。	ホーム独自の理念「思いやりが通う同居人」を基に、あるがままの利用者を受け入れてケアを行うよう、折に触れ、理念の確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事に、地域の方を招待したり、散歩に出かけたときに、挨拶と会話でホームを理解していただく。地域のふれあいサロンに毎月1回参加している。	利用者は、町主催の料理教室やふれあい喫茶などに参加し、その場で顔馴染みになった住民がホームの夏祭りに踊りを披露するなど交流が繋がっている。管理者と職員の地道な努力により、地域との交流は徐々に広がりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のふれあいサロンに出かけたときに、認知症については、話す機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価後に、ご家族へアンケートを出しそれを基に運営推進会議で話し合いを持っている。	花見や夏祭りなどの行事時に運営推進会議を行なう等、家族が参加しやすいよう設定し、メンバーも偏らないよう工夫をしている。	今後も、より多くの地域の協力者や家族の参加が得られる工夫を重ね、運営推進会議をより充実したものにしていく努力に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町職員に毎回、運営推進会議に参加していただくため、どんなことでも話しやすく、相談出来る。	行政の担当者が毎回、運営推進会議に出席していることもあり、気軽に話し合える関係が構築されつつある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、取り組んでいて、権利擁護委員会が2ヶ月に1回開催されている。玄関の施錠は、しなくてもよい造になっている。	法人全体の委員会を含め、事例を通じた研修や検討会などで学んだことを、日々のケアの中でも振り返りながら職員間で確認合っている。利用者が一人で玄関から庭に出ても安全で、ホッとできるような設計となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、職員全員に周知している。利用者に対しての言葉遣いや態度が虐待につながるようお互いに注意しあったり、管理者に相談したりしている。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、理解しているため相談または、必要と感じたときには、家族に話すようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行ない、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の入り口に意見、苦情箱を設置している。今年度は、アンケートの内容を変更し、運営推進会議、職員と話し合いを持った。第三者委員の連絡先を書面で配布している。	フロア毎の担当職員が、利用者・家族の意見を聞くよう努力している。また、利用者の家族アンケートの結果をまとめ、職員間で検討し合い、ケアに活かせるよう配慮をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、いつも職員の意見を聞くようにして、出来る限り運営に反映している。法人代表の理解もある。	職員が管理者やユニットリーダーに相談できる風通しの良い関係が、日常的な相談や意見交換を通して出来上がっている。利用者に対する意見交換も行い、管理者はその意見の中から運営に関する意見を拾い出し、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を出来るだけ受け入れ、勤務表に反映している。職員評価は、管理者が年3回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、研修情報は職員の目に届くところに掲示して、参加できるようにしている。希望があれば、参加できる。又管理者より必要な研修は、指示する場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者との交流する機会を持っている。職員は、研修時に交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期時は、できるだけ多く会話するようにしている。不安や、困っていることは、家族と相談しながら対応する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間をかけて話を聞くようにしている。又、不安なことはすぐに対処できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内にある複数のサービスの事業者の意見も聞き、適切なサービスを支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを進んで参加できるような雰囲気作りをし、日々の生活の中から、信頼関係を築くようにして、本人の得意なことを教えてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月利用者の暮らしの情報を郵送している。気持ち、行動、状態などを知ってもらうことで、家族との共有をする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連絡を密に取り、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努める。 隣同士の入居が、多くなり、入居者の家族でなくても近所である事で話しかけてもらえる。	利用者の重度化に伴い、馴染みの関係の継続が困難になってきているが、ホームに知人が入居したことにより、ホームを訪れた家族と共に、昔の話をしたり、近所付き合いのような関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を配慮したり、会話を促したり、日常の手伝いの参加の中から思いやる関わりを持つようにしている。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に来て頂けるよう、退所時に話す。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報を得たり、本人の希望、意向の把握に努めるようにし困難な場合は、管理者、職員と相談し希望、意向に沿えるように努力している。	利用者の日々の言葉や様子に職員全体で関心を払い、気づいたことは全職員が共有できるよう申し送り、本人主体の暮らし方となるよう支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族からの情報を基に、生活環境、これまでのサービス利用を把握して、利用者として生活するうえでのアセスメントで把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理表の利用や、カルテの記事で把握が出来るようにし個々に合わせた日課表に作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に、カンファレンスを行ない、本人の現状にあったケアプランとなるよう見直しをしている。	家族の訪問時などに、利用者や家族の意向を聞き取り、その内容は申し送りや職員会議で共有され、介護計画に反映させている。3ヶ月毎にカンファレンスを行うと共に、急変時や必要時には、その都度対応できるよう配慮をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践は個別の記録に記入すると共に、申し送りノートに記入し、情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が医療法人で、他のサービス事業所があり、いつでも相談でき、利用することが出来る。そのために家族の相談があっても対処できる。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小・中学生のボランティア、研修生の受け入れ、民生委員の方からは、地域の情報をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院なので、家族の方も安心されていて、適切な医療を受けている。	利用者のほとんどが、母体の病院をかかりつけ医としており、月に2回の往診が行われている。診断内容によっては、総合病院へ搬送し、治療できるよう連携が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算にて日常の健康管理は出来ていて、相談はいつでも出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを書くことで、情報を伝え、連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の事前確認書を基に、重度化、終末期と医師が判断された場合家族、利用者が、最期をグループホームで迎えたいと願う方に、身体的、精神的苦痛、苦悩を出来るだけ緩和し、日々の暮らしを営めるよう援助する。	契約時に、看取りに関する説明を行い、医療依存度の高い利用者は、他施設へ移ってもらうよう依頼している。利用者と家族の意向と希望に応じ、ホームで、家族・医師・管理者・職員で情報を共有しながら看取りを行った実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の応急手当や、対応の話し合いをしたり、緊急マニュアルを作成している。AEDと人工呼吸法の講習を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関連施設が近くにあり、消防、警察、近所の方との関わりを密にして、働きかけをしたり、利用者と共に避難訓練している。	消防署との訓練は年に1回、利用者と職員を含めたホーム独自の夜間を想定した訓練も年に1回行っている。管理者が作成した防災マニュアルに沿って、ホームで勉強会を行う予定がある。	地域で行われる防災訓練などにも積極的に参加し、また、職員の防災に関する意識を高め、非常時に俊敏に対応できるよう、ホームで行う勉強会の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの中で利用者の情報を共有し、職員同士が意識し合うように話し合いを持っている。	利用者を名字で呼ぶよう、全職員間で決めている。職員会議やミーティング時には、その時の話題も交えて、プライバシーの保護や個人情報の取り扱い、守秘義務についてなどが話し合われ、職員同士で心がけながら日々のケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、会話時、行動などにて判断し、思いや行動をくみ取り、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を、確認しながら行っている。又、意思の確認が出来ない方は、出来ることを職員がその人にあわせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて快適な身なりをしていただくよう支援している。又、希望に応じて選ぶ場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を聞いたり、食べたいものがあれば取り入れたりして、準備を手伝っていたり、後かたづけなどの出来ることをして頂いている。	食事の内容は、利用者の好みを取り入れたり、旬の食材を用いたり、3ユニット毎に特徴ある献立となっている。長期入居の利用者が多く、徐々に出来ないことも増えてきているが、準備や片付けなどは、出来る範囲で職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態、量は、その人にあったものにし、栄養バランスは法人内の栄養士に、確認する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人にあった口腔ケアを実施している。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の力に応じて出来る限りトイレでの排泄を支援し、排泄パターンの確認をしてトイレに誘導している。	排泄チェック表で確認するだけでなく、利用者の仕草や表情で様子を判断し、トイレにさりげなく誘導するなど、利用者の尊厳を守る排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた便秘予防をしている。水分量、根菜を多くしたり、内服の調整などで支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴時間は決めているが、介助時を利用者に合わせた介助をしている。	入浴は週に3回行い、介助が必要な利用者も、職員が2人がかりで支えて入浴させている。入浴の順番は、その日その日の体調や思い・要望を聞き入れて、公平になるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に沿えるよう心がけている。夜間は、眠剤を使用しないで、お茶を飲んでいただいたり会話などして職員と一緒に過ごし休んでもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、看護師が、把握しており、異常があれば医師に報告している。誤薬マニュアルに沿って服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じて手伝いなどしていただくようにしている。生活歴から、趣味など知ることが出来るが、出来る事が少なくなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩には時々出かけることが出来るが、普段いけないところには、家族の協力で出かけることもあります。	日常的な散歩は天候や体調に合わせて行ったり、庭の敷地内をぐるりと周る遊歩道などをゆったりと歩く利用者もいる。ホーム近くの自宅に帰りたい希望のある利用者には、散歩がてら職員が同行している。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、管理できる方は本人が管理して出来ない方は職員が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に合わせて手紙を出したり、代筆したり、一緒に郵便局に出しに行く援助をしている。電話は、希望に応じて、援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、行事の写真、飾りなどで季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるようにしている。	玄関にはランの花が飾られ、共用空間には行事の写真や利用者の作品・塗り絵が展示されている。一人になりたい時は居室で過ごし、日中はリビングで過ごすなど、思い思いにホームの生活を過ごしている。	今夏の暑さ対策で、ホーム内は常に冷房を稼働させているが、締め切ったままのせいか、空気のよどみが気になった。定期的に換気を行うよう配慮されたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に、畳のスペースもあり、ひとりになる工夫はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談しながら、馴染みの物を持ってきて頂くようにしている。	個人よって、持ち込みの量に差はみられるが、馴染んだ家具やタンス、仏壇など、思い入れのある物が持ち込まれている。また、その人その人の作品や手芸品が居室の壁に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の整備をし、個々にあった支援をし、居室には目印があり分かりやすくしている。		